

令和5年度第1回東大和市文化財専門委員会議
会 議 次 第

日 時：令和6年3月29日（金）
午前10時00分から

場 所：郷土博物館会議室

生涯学習課長あいさつ

委嘱状伝達

委員自己紹介

職員紹介

委員長及び副委員長の選任について

議 題

令和5年度文化財保護行政事業について

その他

令和5年度第1回東大和市文化財専門委員会議（要旨）

開催日時：令和6年3月29日（金） 午前10時00分～11時30分

開催場所：東大和市立郷土博物館会議室

出席委員：安島喜一委員 石井裕光委員 加藤哲委員 砂田さと子委員
中藤成実委員 藤田昭造委員 松原典明委員 7名

（欠席委員：永石文明委員・宮本八恵子）

事務局：岩野生涯学習課長・坂本郷土博物館長・阿部主任・梶原学芸員

・生涯学習課長あいさつ

・委嘱状伝達

・委員自己紹介

・職員紹介

・委員長及び副委員長の選任について

東大和市文化財専門委員の設置に関する条例施行規則第2条第2項の規定により、委員の互選により正副委員長を決定した。

委員長 藤田昭造委員、 副委員長 安島喜一委員

○議題 令和5年度文化財保護行政事業について

事務局：資料をもとに令和5年度文化財保護行政事業について説明を行う。

● 市民から寄贈・寄託された資料の紹介

（1）旧日立航空機株式会社の勤労課に勤めていた方に関する資料。旧日立航空機(株)の辞令の他、この方が勤めていた他の仕事に関する資料など。

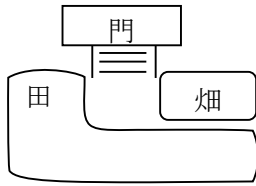
（2）昭和50年代前後の雲性寺付近の写真資料など。

事務局：変電所の資料を新しく預かることができたので、夏の展示では当時の戦時国債などと一緒に戦時中の紙に関する展示を行う予定である。詳細はまだ寄託者と詰められていないが、住所や該当者の氏名を伏せずに展示してもよいとの話もいただいているので、できる限り伏字は使わずに、そのままの形で展示したいと考えている。

委員：変電所を有することは東大和市の特徴のひとつ。戦争遺跡や資料を後世に残して行くことが重要。個人の記録であっても、それを通して時代の流れを伝えていく

ということが大事。資料の中に国民一般職業能力申告票控があるが、国家総動員法が作られる流れを示している。

委員：当時は雲性寺の前は東が畑、西から南にかけて田んぼもあった。



東大和市は全体的に田んぼは少なかった。写真を提供していただいた方のお宅では養豚を行っていた。また梨（長十郎）の栽培もおこなっていた。

事務局：養豚の写真はないが、梨が写っている写真はある。

委員：もう亡くなってしまった東大和市の成り立ちに詳しい方に写真を見てもらえば、もっとよくわかったかもしれない。

委員：戦時中、京橋から強制疎開で来た子どもたちは、自分も含めて狭山神社の公会堂に寝泊まりしていた。当時は蛍やドジョウも生息しており、ドジョウも貴重なタンパク質だった。

八幡神社で松根油を掘っていたら土器が出てきた。まだ正式な発掘事業が行われる前だった。

委員：以前に紹介された多摩湖の工事が出てきたレールについて、何か新しいことはわかったのか。東大和市の成り立ちに関わるのではないか。

事務局：軽便鉄道のレールが土留擁壁に使われていた経緯は調べているが、まだわかっていない。市の成り立ちとの関連は何とも言えないが、多摩湖の築造が当時の村を大きく変えるきっかけの一つであると思う。

委員：元水道局の職員からきいたが、トロッコはドイツ製だったらしい。

事務局：土留めに使われていたレールとトロッコ列車用に使われたレールは規格が違う。

委員：土留め部分は非常に貴重なものだと思う。

下貯水池は宅部池の水を逃がしながらの作業だった。大正時代前半にパネル工法ができた。近代化遺産、土木遺産としても価値があるのでは。

村山貯水池と戦争遺跡は東大和を特徴づけるもの。広く知ってもらえるよう発信したほうが良いと思う。変電所等についての資料を探していることをアピールしたらいいのではないか。

○議題 その他

委員：他市の文化財専門委員との交流ができないか。他市ではどのような議論が行われているか知ることは、お互いに良い刺激となると思う。近隣の東村山市や武蔵村山市などと情報交換ができればよいのではと考えている。